

ZOOM UP



1995.No.90



キャンパスの若人
日本大学歯学部

歯界展望

京阪電鉄・滝井駅から1~2分。近年都会地にある大学はどちらもそうであるが、おそらく当大学も創設時には大阪の郊外地として緑豊かなキャンパスを有する学舎であったと想像するが、現在は周囲に建物がビッシリ、芝生や木々の緑とは緑の薄い様相を呈している。大学本部のある滝井キャンパスの建物は附属病院などを含め1~10号館に分かれており、ちょっとのぞいた病院待合室には患者さんがあふれていた。

ご紹介の田代学長のおられる1号館のロビーに入ると、正面に医学の祖であるヒポクラ



関西医科大学学長

田代 裕

●略歴

- 大正15年11月 京都市に生まれる
- 昭和24年3月 京都大学附属医学専門部卒業
- 昭和31年5月 京都大学医学部助手
(生理学教室)
- 昭和36年4月 京都大学医学部助教授
(生理学教室)
- 昭和36年8月 アメリカ合衆国ロックフェラー研究所
所留学(ロックフェラー財団フェロー・
リサーチアソシエート)(2年3ヶ月)
- 昭和39年6月 関西医科大学教授・生理学第一講
座主任
- 昭和46年8月 ロックフェラー大学客員教授
(1年間)
- 昭和51年4月 ニューヨーク大学客員教授(6ヶ月)
- 昭和61年6月 関西医科大学附属肝臓研究所教授
併任
- 平成5年1月 関西医科大学学長 現在に至る

テスの“私は、潔白かつ敬虔に、わが生涯とわが医術をまっとういたします”と原語でかかれてある。

“やあ、いらっしやい”と現れた学長。略歴でもおわかりのように、基礎医学一筋に40数年を過ごされて来た方だけに、物静かで、丁寧なお話しぶり。こちらが恐縮してしまう程である。

「本学は昭和3年6月に、大阪女子高等医学専門学校として設立し、その後戦後の学制改革に伴い大阪女子医科大学、次いで関西医科大学と改称し男女共学制となり現在に至っております。設立時からの卒業生は5,923名、関西医科大学となってからは3,515名の卒業生を送り出しております。現在附属病院は守口市のほか香里病院、男山病院、洛西ニュータウン病院と4ヶ所にあり、1日の外来患者総数は約5,000人。信頼される大学病院として地域の信頼を得ております。」「学生の教育は、ご存知のように大学改革案が実施されたことから、本学でも昨年度から6年一貫医学教育を取り入れ、カリキュラムを大幅に改正。1年次のみ牧野キャンパスで将来に備え幅広い教養を教育、2年次より守口キャンパスに移り基礎・社会医学と臨床医学の修練を積む教育を行っております。医学教育との関係から牧野キャンパスでの教育は1年だけとなりましたが、こちらは緑濃い学ぶには素晴らしい環境下にありますよ(笑)」。

——歯科大学は過剰状態にあり、現在定員を削減しておりますが、医科大学は? 「ええ、医科も同様で、本学も以前は約120名が入学しておりましたが、今は100名。更に将来も減らすよう要望されておりますが、私立大学にとっては大変な問題。基礎医学を学ぶ人が少ない現況や医師の偏在、高齢化社会への対応など、総合的に医師の需給のバランスを考えつつ検討すべき問題ではないでしょうか」。経営は附属病院からの収入で85%まかなわれている、とおっしゃるから、収入の少ない医科大学は? 更に又、開業医と直接競合関係にある歯科大学の場合は…?。医科・歯科を問わず悩みは深い。

お生まれ育ちも京都市。お祖父様、お父様と続いた医師のご長男として生まれ、当然のごとく医者への道へと…? 「いえいえ、本当は文系——哲学者か外交官になりたかったんです。そこで親父とカケをしましてね(笑)。第一

志望は文系、第二志望は京都大学附属医専。敗戦直前で浪人は許されず、結局医学の道に進むことになりました(笑)。2年の時、血液学の大家である天野重安先生から細胞についての講義を聞き、これは面白そうだと…。インターン終了後に日本で最初に医学・生物学に電子顕微鏡を使い細胞を研究された笹川久吾先生の教室に入り、細胞生物学の研究をはじめ、どんどん深みにのめり込んで現在に至っております(笑)。「振り返っての40数年、医学の進歩はものすごいものがありますが、中でも遺伝子工学を用いた分子細胞生物学の研究とその医学への応用は、これから更に面白くなるのではないのでしょうか」。でも残念ながら、今は経営にもタッチしなければなりませんから時間もなく、と言われるが、過去、日本細胞生物学会々長や同大会委員長、日本電子顕微鏡学会20周年記念において寺田賞を受賞等々と足跡も大きく、細胞生物学に残した貢献度は多大で、まだまだ後進の指導を末永くお願いしたい大家の一人である。

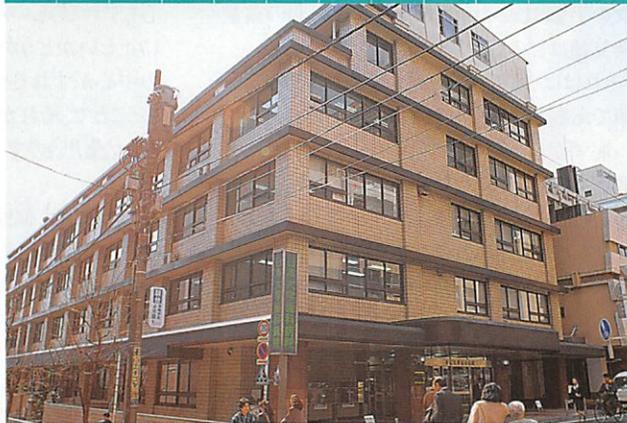
——ところで先生の歯の具合はいかがですか? 「今は上下6本づつ、丁度上下・左右対称的に残っております(笑)。治療は大学前の横山正憲先生のところで治してもらっております。技術・人間共に素晴らしい先生で良い歯科医師に巡り合えたと感じております」。

——今の学生をご覧になって感じられることは? 「ひと口に言って物静かと言うか、おとなしいですね。講義をしても全く質問がなく、解っていないのかなと思うとレポートはキチッと書いてあるんです。受験勉強が長く、自分の世界にのみ入り込み、他人とのコミュニケーションやディスカッションをする機会が非常に少なくなって来ているのでは、と危惧しております。自分で考え創造する力が薄れ、丸暗記のみが強要される今の受験制度の弊害ではないかと思えますね。将来医者となり、患者さんとのコミュニケーションが何より大切な職業ですから、我々教育者も含め、大学の在り方を考えなおす時期に来ているのではないかと思います」。

基礎医学畑をずっと歩んでまいりましたので、医科・歯科とも、読者の先生方が望む開業医としてのお話がなくて申し訳ありません、とおっしゃるが“生まれ変わっても又この道を歩みたいですね”とキッパリ言われる学長。同じ医療人として生きる読者の先生方にも共感となって伝わることであろう。

私と日本大学歯学部

歯学部長
工藤逸郎



■プロフィール

昭和33年3月 日本大学歯学部歯学科卒業
昭和43年4月 千葉大学助教授 医学部
(至 昭和47年3月)
昭和45年12月 医学博士(千葉大学)
昭和47年4月 日本大学助教授 歯学部
昭和53年4月 日本大学教授 歯学部(現在)
昭和61年4月 日本大学歯学部附属歯科病院副院長
(至 平成元年3月)
平成元年4月 日本大学歯学部附属歯科病院院長
(至 平成5年3月)
平成元年4月 学校法人日本大学評議員(現在)
平成5年2月 日本大学歯学部長(現在)
平成5年3月 学校法人日本大学理事(現在)
平成5年 日本私立歯科大学協会理事
平成5年 日本口腔外科学会理事

3月から4月にかけ、大学は卒業、新入生の送り迎いで、最も多忙期。中でもトップに立たれる歯学部長は身体がいくつあっても足りない時節。そんな合間をぬってのインタビューであるが、お会いした先生はゆったりとした言動に歯切れのいい口調で、日大歯学部の現状と歯科医療の方向、又育った道程等を語って下さった。

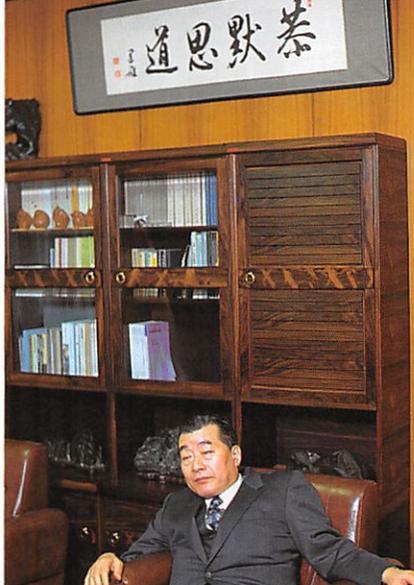
「歯科医師不足が叫ばれ全国に歯科大学あるいは歯学部が設立されましたが、平成4年、適数とされる人口10万人に対する歯科医数50人を突破し62.2人となっており、当大学も入学定員を削減して来ました。現在809人の学生が在学しておりますが、今年6年生が卒業しますと、1学年の定員128名の在校生のみとなり、全学生数も700数十名となります。従って学校経営という面からみますと益々厳しい時代に入っていくと察せられます」。

——今年の卒業生に贈る言葉は？「現在はご存知のように、患者さんが歯科医院を選ぶ時代。他の職種と同様、今後は黙っていても患者さんも来院されないはげしい競争社会に身を置くことになります。が一方、大学の教育期間から考えますと、今国民が望む高度歯科医療を6年間でマスターするのはとても無理というのが現実です。従ってそうした勉強は卒業後も着実に休むことなく研鑽・努力し、真の実力を備えた歯科医師として育てて行って欲しい。そう願っております」。又、「大学での6年間は生涯歯科医師として生きる、いわば基礎教育を身につける期間ですが、近年、どちらの大学でもそうでしょうが、大学病院での治療の多くは開業医レベルでは処置不可能な難症例が多く、学生に必要な基礎的な治療法をマスターさせる症例が非常に少ないのです。大学にとっての悩みの一つでもあります」と言われる。開業医と大学病院。将来日本の歯科医療界を背負って立つ学生の教育と、医師過剰から来る患者数の激減に悩む開業医。加えて国の医療費予算の枯渇。工藤先生の言われることがよくわかる。

——多くの問題を抱える現状ですが、一方新しく希望をもって入学されて来る学生に話

されることは?「患者さんが歯科医師に望むことは昔も今も“医の心”を重視することは変わらないと思います。本学は以前から患者さんとのコミュニケーション、つまり十分な説明と患者さんの立場に立った歯科医療を、という教育を最重点にして参りました。その為入試方法も学力だけでなく、育って来た家庭の躰けや常識を兼ね備えた人間性を重視することから、小論文と面接を点数化し、学生を選んでおります。又、入学後も40以上あるクラブ活動のどれかに所属させ、人の和の大切さを学ぶよう指導しております。人として最低条件である挨拶や常識、身の整理整頓さえ無頓着に過ごして来た若者が多い近頃ですが、指導さえキチッとすれば、それらの大切さを認識して行きます。医の心、人の和を身をもって体験し将来に役立てて欲しいと願うからです」。家庭内における労働の減少、少子時代、学力偏重。どれも成熟社会の一つの流れであろうが、工藤先生の、教えればキチッと出来るようになりますの言葉に、ホッとする。

お生まれは山形県・米沢市近郊。ブームの上杉鷹山が藩校として設立した興譲館、後の興譲館高校を卒業し、山形大学の医学進学コース(文理学部)へ。歯科医師の一人息子であることから当然のごとく日本大学歯学部へ入学。「卒業後国家試験の発表迄家に帰ったんですが、父が新国先生(後の歯学部長(故))の先輩にあたることから、将来を相談したら、それなら口腔外科に残りなさいと…。私も補綴はあまり好きじゃなかったことから(笑)、すぐ副手として口腔外科学教室へ。給料が安いので、当大学で夜間診療や市ヶ谷の自衛隊の新入隊員の身体検査のアルバイトに慶応大学医学部の人達といっしょによく行きました(笑)。その後、当学部の創設者である佐藤運雄先生が千葉大学の医学部の佐藤伊吉教授と親しかったことから当時の鈴木勝歯学部長(故)の命令で千葉大学口腔外科へ行き10年間過ごしました。今になって考えますと、当時、医学部の先輩や友人と共に語り、研修した事は、その後の私には



非常に良い経験となりました」と、若き日の歩んだ道程を語って下さった。

—当大学の特徴、教育方針については「本学は創設時から教室内の講義や実習だけでは不十分で、人間性をも高める教育、“全人的教育”と呼んでおりますが、マンツーマンで教職員と学生が個人的に接触出来る場を持つ方針を貫いております。ただ、見てもおわかりのように、都会の真ん中にありますから、木陰や芝生の上で語り合えるという憩いの場所がなく、その点はちょっと可哀相だと思っております。又、総合大学という利点を活かし、他の学部との交流も、現在は体育大会などを通してやっておりますが、今後は更に充実させ、先に言いましたように良識と人の和を大切に作る医療人を育てる大学として、名実共に推し進めて行きたいと願っております」。当大学を巣立ち、全国で活躍される現役の歯科医師は約9,000名弱と言われるから全国の歯科医師数の1割以上。残した足跡も大きいことであろう。

—今後の歯科医療界の行方については?「難問題も山積みされていますが、学生達の論文を読みますと以前と比べ、経済的な利点を重視してこの道に入って来る人達は少なくなって来ています。歯科医師の将来は暗いような話が多い中で、真から歯科医師に成りたい、歯科医療を通じて国民の健康を守って行きたい、と思って入学して来る学生の真情を考えますと、将来は明るいと感じています。こうした学生に、今後の歯科医師に求められる知識、技術——例えば口腔は全身の一部であり、全身の健康管理と歯科医療との関係を重視する教育を行かなければならないと考えています。8020運動も、その残された歯をその後どのように管理して行くのか?他の全身機能との関わり合いは?そうしたことを考えて行けば、歯科医師には未だ未だやらなければならないことが多く、将来は明るい展望が開けると思っております」。その他ご専門の口腔外科や佐藤運雄初代学長の生き方等、お話しは尽きない。ザックバランでたのしい歯学部長である。61才。



社団法人

沖縄県歯科医師会

当ズーム・アップ誌がオサダから創刊されたのが昭和47年であるが、偶然にもその年の5月15日に、

沖縄も戦後のアメリカによる施政権から開放され、正式に本土に復帰された。

当時の沖縄における歯科医療の資料を見ると、人口約95万人に対し歯科医師数140人、歯科介補者数16人(本土免許を持つ正式な歯科医師ではないが、琉球免許を持ち一定条件のもとで歯科診療が出来る技士)の計156人とあるから、歯科医師1人に対しおよそ6,000人強となる。当時本土は2,700人強であることから、歯科医師の不足は相当深刻であったことが想像出来る。

そして23年。現在の歯科事情は…。

沖縄県歯科医師会館は空港より車でおよそ30分、浦添市の小高い丘の頂上にL字型の真っ白な姿を見せて建っていた。吹き抜けになった駐車場に立ち、市街とコバルトブルーに輝く西海岸を一望すると、思わずこれが日本かと思う程、その景色は素晴らしい。

建物内部は、1階を事務室と駐車場、2階が役員室と大小会議室等に、3階は沖縄歯科衛生士学校、4階を県口腔衛生センターとして使用されているご様子。

役員の日々の診療にさしつかえない様にと開かれる定例会議は

日暮れが遅い南国とはいえ夜8時からとはめずらしい。

執行部の先生方の熱心さには頭が下がる思いだ。

お会いした又吉会長、高良副会長、喜屋武専務理事の先生方、戦争で昭和1ヶ月生まれが多く亡くなったことから会員の平均年齢が他県に比べ若いんですよ、と言われるが、そうした過去を吹き飛ばす様に、若く清しく明るい、とかく上意下達が多いと聞かれる中であって、おそらくその率直でオープンな姿勢、言動は県下の会員の皆さんに好感となって伝わっていることであろうと想像する。

Officers of OKINAWA Dental Association

会 長 / 又吉 達雄
副 会 長 / 高良 恒己
専務理事 / 喜屋武 満
理 事 / 饒波正太郎
理 事 / 宮城 正廣
理 事 / 仲里 正博
理 事 / 新城 啓和
理 事 / 金城 賢治
理 事 / 真境名由守
理 事 / 赤崎 栄
理 事 / 金城 光也
理 事 / 高嶺 明彦
理 事 / 松島 一夫
監 事 / 兼浜 政勝
監 事 / 瀬底 正男
監 事 / 伊波 富夫



会
長／又吉
達雄



会長：当県の歯科医師会が設立されたのは大正9年12月ですから、他県に比べ遅かったようです。又、その後も皆さんもご存知のように長い間アメリカの統治下におかれていましたので、他県では見られない特殊な道を歩んでおります。復帰前は沖縄の医療保険は被用者保険で、住民皆保険(国保相当)の審議途中で日本復帰が実現しました。診察料は医療担当者の裁量権をとり入れた自由診療形態で、給付を受ける際は琉球政府の規定により算定した額の10分の7に相当する額の給付を受ける仕組みでした。復帰に際し徹夜で技官と議論、交渉しました。歯科医師もアメリカ人やフィリピン人など外国人医師も大勢おりまして、復帰後は本国に帰るか、日本の免許を取得するかで政府間交渉となったりで、当時の会長は大変苦勞をされた様です。が一方、基地という特別な環境下にあったことから、歯科医療における技術や薬品・材料もいち早く手に入れ学ぶことが出来たという良い面も多いです。例えば当会の戦後の初代会長である平良進氏は水癌患者に米軍の病院でも厳重な管理下にあったペニシリンを特別な好意で使用、患者を回復に導いたり、現在8大学が当番制で回っている離島の診療や、米軍医と共にフライングドクターと呼ばれたヘリコプターで行ったりで…。我々にも良い勉強となりましたが、住民への貢献度も大きいものがあったと思います。

現在は県民約130万人を会員375人、その他約100名でカバーしておりますが、一時的な南国への憧れからか短期滞在で会員にならず内地へ戻っていく人を除けば、54の島々に分かれているにもかかわらず、皆さん協力的で、勉強も熱心。誇れる会として執行部も感謝すると共にやりがいを感じております。

高良：当県の又吉執行部は2期5年目を迎えておりますが、会長の方針から出身大学にこだわらず、年齢も30代から50代に亘

副
会
長／高良
恒己



って各世代の意見を幅広く聞き、会を運営して行こうということなので、お陰様で会員にも好評のようです。我々の活動は、口腔衛生センターを初めとして衛生士学校の運営や県庁職員検診、事業所検診の実施等、行政とタイアップし推進することが多く、又大切なことですが、先に



言いましたように昭和1ヶ月生まれが少ないことは行政側も同じで、そういった意味では話しやすく、気持ちの疎通もあり恵まれていると思っております。又各種講演会も僻地診療に来られる大学の先生に依頼したり、会でお願ひしたりで、年間10回以上開催しております。スタディグループも現在10数グループありますが、皆さん研究成果を競って発表。その講演を全会員に知らせたいとの要望から県歯会が通知を出し、会員の皆さんのレベルアップを図るようにしております。又県歯会が催す各種の活動等も担当役員だけが理解しているのではなく、役員全員が把握し、細部はともかく、どの支部に行っても説明出来る態勢を整えております。我々も若く、勉強しなければならぬ点も多々ありますが、会長を

先頭にこれからも全力で頑張っていきたいと思っております。

Q：会の執行部と会員、又会員と県民を総合的に考え、その問題点を解決される役目である専務理事の喜屋武先生。悩みはありませんか？

専
務
理
事／喜屋武
満



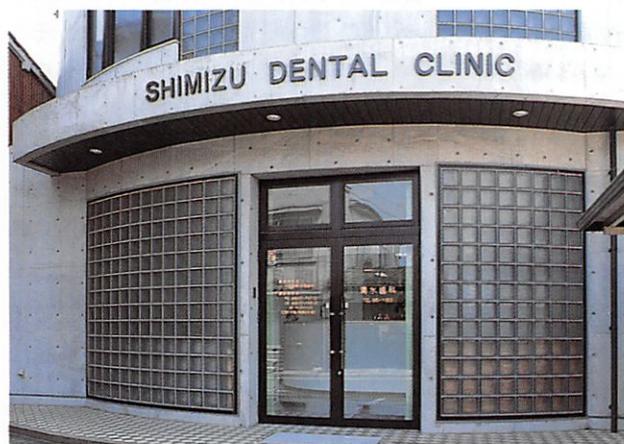
喜屋武：数年前当会も70周年を迎えましたが、年毎に歯科医療に対する住民の要望も変化、高くなって来ております。そうしたことは当然歯科医師会にも反映して来ておりますが、本会で対応するには限度がありまして、行政の力を借りなければ解決出来ない問題が多くなって来ているのが現状です。例えば当県は他県と違って多くの離島を抱かえておりますが、その住民の治療に会員はどのように対処して行ったらよいのか？地場産業が少なく、米軍の軍事基地が現在でも大きな面積を占める中であって、沖縄県そのものの経済が沈滞化しております。そうした現状の中での歯科医院経営は？。県だけではなく国レベルで解決してもらわなければならない問題を沢山抱かえております。厚生省の医療費予算も抑制され、厳しい現実ですが、今後共、130万人の県民の歯科医療を担っていることを誇りに会員と共に努力、頑張って参りたいと思っております。

会長：特殊な体験と事情を抱えて歩んで来た当県ですが、先輩の苦難を忘れず、その心、流れを汲み取り、舵を誤らない様に進めることが我々の役目だと思っております。特に他県から当県に移って開業された会員からめざらしがられるほど役員の方の平均年齢は若いのですが、それだけに燃えるものを持っていると自負しております。全員で助け合い、協力し合って進む会、後輩も伸び伸びと育ち又意見を言える会として、今後も発展して行きたいと願っております。

清水歯科医院

愛媛県伊予郡松前町浜392-2

院長 清水裕之



松山市街・空港とも車で約20分。ご紹介の清水歯科医院は、旧家が並ぶ静かな町中に建っていた。前面をアール状、奥に長い3階建ての建物はカマボコ、それとも歯の形を表わしたのかな、と思われるが、コンクリートの打ちっぱなしの外壁に窓を囲む黒との配色は若者好みの色使いで、古い家並みが続く中であってひとときを引く。

待合室はグレーの床に、およそ10人位は可能と思われる淡い紫色のソファが壁に沿って置かれている。受付は上下に曲線を取った広いオープンカウンター。待合室の奥の壁側に作られたドアを開け診療室へ。窓に沿って通路を取り、右手に半個室になったL字型のセパレーションで囲んだユニットが3台並ぶ。中にはスマイリー<ノーベル>RL型(右前システム)が、淡いグレー、黄、ブルーとそれぞれ色分けして設置されている。これなら子供、お年寄りの方でも自分のチェアは一目瞭然。院長のやさしい人柄がわかるようだ。

ゆったりと広くとったユニット背面には、消毒コーナー、技工室、レントゲン室とビデオが設置されたブラッシング兼相談コーナー室が並ぶ。

全体がモノトーンを中心とした淡い色で配色されている中であって、ナースキャップから白衣まで総てピンクで統一された明るい印象の女性スタッフはまるで蝶の様。おそらく患者さんにも好感をもって伝わっていることであろう。見事な演出である。

院長は昭和61年、長崎大学歯学部を1期生としてご卒業。卒後は小児歯科学教室で2年間助手として勤務。その後松山市の須之内歯科医院で5年間開業医としての勉強をし、一昨年(平成5年)4月此処松前町で開業に踏み切られた。小児歯科を専攻されたといわれるだけあって、誠実でやさしいイメージを与える。

Q: 歯科医師を志された動機は?

院長: 父は教師ですが、高校時代から医療関係に進みたくて…。医者は勤務医が中心で、私の望む開業医は今の状況から困難ではないかと…。今は苦勞も多いですが、毎日が充実していますので、歯



科医になって良かったと思っています。

Q: スタッフとおよその患者数は?

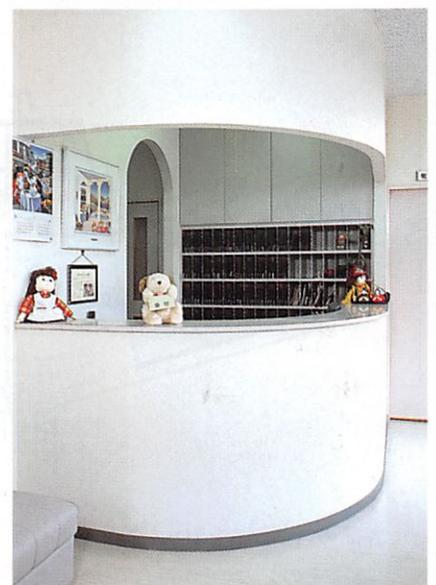
院長: 技工士2名、衛生士2名、受付・助手4名と私の計9名ですが、週休2日~2日半位のサイクルで交替しておりますので、全員揃うことはあまりありません。患者数は1日約40名、初診の人が多い時は50名を越える日もあります。勤務医の経験が長かったので、人数を診ることは慣れていますが、でも40名を越すとちょっとシンドイですね(笑)。患者層は昔からの古い町ですので、ご老人、専攻が小児歯科でしたから子供さん、近くに工場がありますから成人の方々、又リハビリ病院も近いことから障害を持った患者さん等、幅広い層の方が来院されます。

Q: では近くにあまり歯科医院はない?

院長: いいえ、ここから1キロ以内に当院を含め5軒あります。開院時は心配、又周囲の先生方にもご迷惑をかけるのではないかと思いましたが、幸い皆さん好意的に気持ちよく迎えて頂いたので…。感謝しております。

Q: 収入の割合は?

院長: 9割方保険で、内訳は社保が2/3、国保が1/3です。歯科でも痛くない治療をすることは可能という勉強を小児で長く学んで来ましたので、1人当たりの治療時間も長く、正直いって1日が終わるとグッタリ。休日は、講習会がない時は何もしないで休んでお



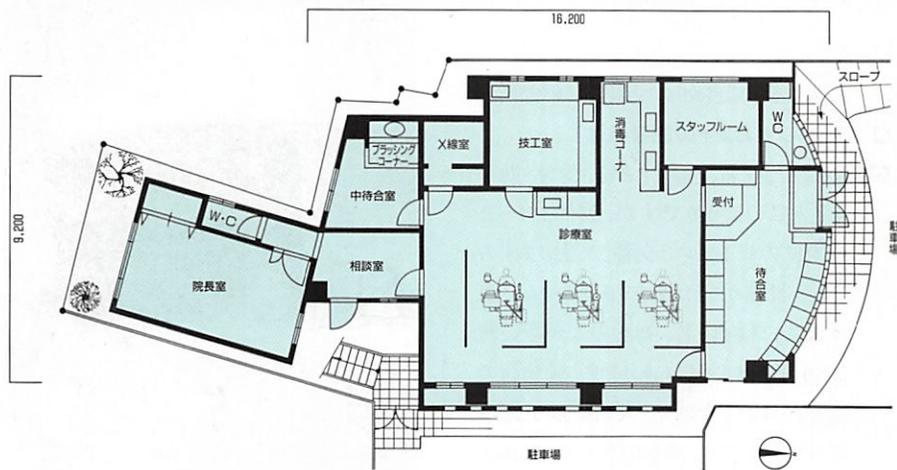
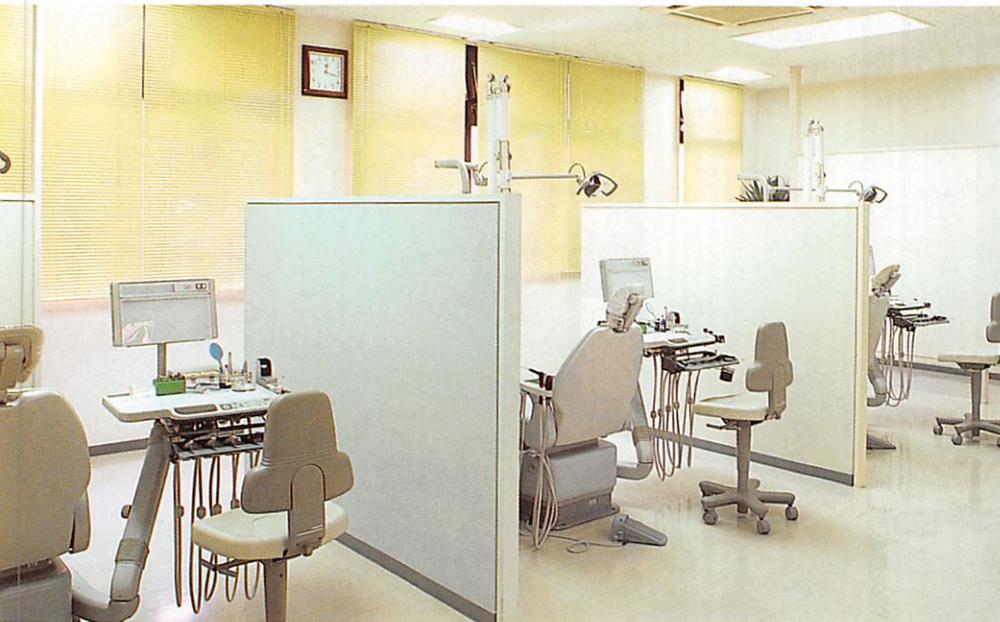
ります(笑)。

Q: 何故小児歯科をご専攻?

院長: 日本の将来を背負ってたつ子供達の健康を守っていきたいと思い選びました。妻が今妊娠中ですが、自分が子供を持ったらもっと実感として深く子供の心理を掴めるでしょうね(笑)。

Q: 診療室を建てられるにあたってご留意された点は?

院長: 歯科は痛みや恐怖感から患者さんのストレスがたまりやすいところですし、スタッフも色々な層の方々から共にストレスが多くなる職場だと思っていたことから…。まずゆたかりとした空間と動線分離を考えました。でも出来上がってみると、図面で見るとはちょっと違って、



あたっても、デンタルショーに2~3回行き、妻に座ってもらって感想を聞いたり、タービン操作や性能を一つ一つ確かめたり、色々なメーカーを回りました。オサダのユニットは初めての経験ですが、その結果、やはり一番使いやすいと決めました。1日中、それも長年使うものですから、ちょっとしたことでもストレスが積み重なると身体によくありません。思った通り、使いやすいユニットでした。

Q：将来は？

院長：歯の治療だけでなく、ここを出た時、精神も肉体も共に、何か気持ち良くなったな、と感じられる歯科医院になれたらいいな、と思っております。そのための勉強を私もスタッフも共にして行きたいと思っております。

各部のスペースを取りすぎたかナーと(笑)。そのシワ寄せが待合室にいったようですが、まあ全体としては動きやすく、その分ストレスも感じない様で、ほぼ満足しております(笑)。

Q：セパレーションにされましたの？

院長：動線分離の方が患者さんもスタッフもお互いに楽だと以前から思っていたので…。時々、患者さんも気楽にいられることからか、イビキをかいて眠ってしまう人がいるんですよ。そういう面では私の思っているリラックス出来る診療室かなと…。自分で満足しております(笑)。

Q：ご自身の勉強、又スタッフの教育については？

院長：私は時間が許すかぎり、歯科医師会やその他色々な専門分野の講習会に出席したり、雑誌等で。スタッフは週1回ミーティングをやっておりますので、その時に。後はその都度気がついた時に注意

しておりますが、皆さん明るく、患者さんにも好評なようで助かっております。

Q：オサダのスマイリー<ノーベル>RL型。選ばれた動機は？

院長：私は自分でもかなり慎重な性格だな、と思っております(笑)。ユニットを選ぶに





おぐろ歯科医院

新潟県三島郡寺泊町大字吉364-8

院長 小黒一郎



新潟市街より海岸線に沿って国道402号線をおよそ1時間。日本海と言えば、紺碧と荒海を想像するが、さすがに春、晴れ上がった青空のもと、のんびりと波音をたてていた。

ご紹介の「おぐる歯科医院」は、北陸のアメ横と呼ばれる海産物店が立ち並ぶ寺泊(てらどまり)港を左に折れ約5分。小高い丘を下った長岡方面に向かう県道筋に建っていた。紺地に白ヌキの医院名の立看板の脇はコンクリートを敷いた15台以上は可能と思われる広い駐車場。母屋に続く診療所の外壁は白に近い浅黄色。2~3段昇って玄関から待合室へ。

待合室は市松模様のカーペットの床に、およそ7~8人は座れると思われる濃茶の椅子が壁に沿って置かれている。院長先生の言葉によると、窓がなく設計の失敗だったと言われるが、ゆるやかに曲線をえがくオープンカウンターを通して視線が広がり圧迫感はいく感じられない。

変わって診療室は、待合室の外光を取り戻す様に三方を窓が囲む、明るすぎる(?)程の好環境、どちらを向いても周囲の景色が目に入るという、居心地良い診療室に仕上がっている。院長が考えられたと言われる扇状のパーティション、中に巾5cm位の薄紫のガラスが帯状にはめ込まれ、隣接する患者さん同士の視線が合わない様、巧みに設置されている。窓に沿って並んだスマイリー<ノーベル>L型3台と相談コーナー、春とはいえ外はまだまだ寒い北国であるが、話していると汗ばむほどの暖かさである。

院長は新潟大学歯学部を昭和60年にご卒業。その後更に同大学院(口腔解剖学専攻)にて4年間勉強され、卒後は助手を1年経験。その後将来の開業を目指し、長岡市にて開業中の清水歯科医院にて4年間研修されたという努力家。昨年6月開業されたばかりであるが、誠実な人柄と実力が好評を呼ぶのであろう、開業当初より患者数も順調に伸びているご様子だ。

Q: ご開業以来約10ヶ月。落ち着きましたか?

院長: ええ、そろそろ。初めは都市部で開業しようと思っていたんですが、父が建物を



つくり、私の帰りを待っていたので、生まれ故郷でもあることでし、ちょっと田舎で心配しましたが、思い切って開業することにしました。

Q: で、現在は?

院長: 最初は父の知り合いや近くの方々に声をかけ、2台のユニットでほとんど宣伝もしないで始めましたが、1ヶ月で足りなくなり、すぐ3台目を入れたぐらい順調で…。案ずるより生むが易しの出だし。今は恵まれたと感謝しております。

Q: この辺りは歯科医院が少ないのですか?

院長: いいえ、人口12,000人に対し6軒ほどありますから、決して少なくはありませんが、通勤帰りの方が道路筋にあることから目にとり来院されます。従って患者層も若い人が多いですね。

Q: 歯科医師を志されたのは?

院長: 医療関係に進もうと思っていたことと、私の受験する頃はこの辺りに歯科医院はなかったんです。でも卒業する頃になって増えまして(笑)…。先に言いましたように、開業時は心配しました。

Q: で、今のご心境は?

院長: まだ開業まもなく、試行錯誤の毎日ですが、患者さんと接することはの楽しいし、何より自身の勉強が即、例えば新しい機器の導入により、予防、アフターなど総て結果となって自分に帰って来ます。責任も重いけれど、面白く、やりがいのある仕事で、性格に合っていると思っております。自分がベストを尽くして診療した患者さんとは、しっかりした連帯感が感じられます。特にこのポスター(皆さんの歯は元気ですか? 歯の治療はおぐる歯科医院へ、というイラスト入りのポスターが玄関、待合室、診療室等に貼ってある)も、患者さんが描いてくれたんです。本当にうれしかったですねー。

Q: 街中での開業との違いは?

院長: 私の場合は生まれ故郷ですので知り合いも多く、その為休日や時間外でも治



療を頼まれるんです。ちょっと大変ですが、それだけ頼りにされていると思えば苦になりません。市内での開業とは違いますね。

Q：スタッフ数と教育については？

院長：衛生士2名、受付1名と私の計4名です。教育はまだ始めたばかりで、系統だててはやっておりませんが、自分の考え方を最初に話し、細かいところはその都度注意・教育するようにしております。また、こちらから教えるだけでなく、疑問と思うこと、こうした方がいいのではないかということなども言ってもらって、お互いに納得いくまで話をするようにしています。彼女たちも私の考えに共感してくれているせいか、よくやってくれます。私も今は時々大学に行ったり、講習会に出たりの勉強法ですが、そろそろインプラントなど本格的に勉強して行こうと思っております。

Q：診療室を作られるにあたってご留意された点は？

院長：明るく清潔で開放感のある診療室と治



療時の機能性ですね。診療室は思い通りに出来上がりましたが、そのシワ寄せが待合室にいつてしまっ、ちょっと失敗したかなと(笑)。それと配色ですが、夏に作りませんでしたので、とにかく涼しそうな色ばかり使っ、冬の今は実際は汗ばむ程暖かいんですが、少し寒々しい感じかな、と思っているんです(笑)。でも患者層がわりと若い人が多く、好評でホッとしています(笑)。

Q：数あるメーカー。数ある機種の中からスマイリー<ノーベル>を選ばれたのは？

院長：オサダの営業マンの人とは長いつき合いがありましたので、安心感がありました。勤務先でもオサダのユニットを使っていたので、自分で開業してもオサダのユニットを使おうと思っていました。最初は使い勝手からスマイリーNを考えていたんですが、感染予防などを考え、この

機種にしました。患者さんも、きれいな機械ですね、と言ってくれますし、使い勝手も、思っていたよりずっと良く、安心しました。

Q：将来は？

院長：大学時代、解剖、特に骨について勉強して来ましたので、それを活かしてペリオやインプラントなど骨との関わり合いの深い分野を更に勉強して行きたいと思っております。医院内は、地域性を活かし、とにかく人が気軽に集まり、何でも相談出来る雰囲気を持つ医院にしていければいいな、と思っているんです。今でも患者さん同士が声をかけあって、同じ車で帰られたりすると、こちらまでうれしくなっ来てしまいます。先のポスターの件にしましても…。お互いに相手の立場に立った思いやりの心。それをいつまでも大切にして行きたいと思っております。



Z O O M で C L O S E - U P



梅田昭夫先生 の巻

東京都江東区大島7-1-18
((社)日本歯科医師会常務理事)

シーンと静まりかえった夕方6時過ぎの日歯会館応接室に“お待ちせまして申し訳ありません”と笑顔で入って来られた梅田昭夫先生。たった今、長い会議を終えられたばかりとは思えないほどのエネルギーが全身から感じられる。毎日の日課は、午前中は自宅で診療、午後は当館で役員業務——会計と器材・薬剤、歯科器材関係については特にISO(国際標準化機構)とJISとの整合性に現在は全力を注いでおられるご様子である。

今回は、渋谷区でご開業中の佐藤真勝先生のリレーにより、江東区でご開業と共に日歯の常務理事を兼務される梅田先生にご登場頂きました。ご就任以来7年目。読者の先生方もご存知の方が多いことであろう。

——佐藤先生とお知り合いになられたのは?「私が昭和27年現在の東京歯科大学を卒業した当時、先生は奥多摩の無医村に小学1年から中学卒業までの9年間、3ヶ月ごとに年4回連続模型を取りに通われておりました。私も誘われて共に行く様になり、以来今日まで。当時通称『奥多摩研究会』としてそのグループは活動しておりましたが、そのグループからの研究による学位取得第一号(現在35名)が誕生したことを記念し、先生の名を冠した現在の『佐藤歯学研究所』として正式に設立。その後同研究所より巣立った人達も多くなり同門会が発足しましたが、発足まもなく初代会長がお亡くなりになり、2代目として私が就任して、以来40年余り、ずっと恩師であり、時には親父、兄貴として親身にも及ばぬおつき合いをして頂いております」。又こうも「佐藤先生は国際歯科学士会の日本部会会長や国際会長として活躍されましたが、常にいわれましたことは、研究も地域医療の中にあって、自身がいつも患者さんと接しながら研究をしていくことが大切と言うことです。私も同感で、どんなに研究や会の仕事が忙しくても診療は毎日

やり、時代のニーズを肌で感じながら、患者さんはもとより会員の皆さんと接して行きたいと思っております。」「私の人生を振り返りますと、昔も今も診療所、日歯、前述の研究会等いつも良い人々に恵まれてきてね。人にそれぞれ運ということがあるとすれば、私の場合、即座にそれは『人』と答えられます」。

確かに人にはそれぞれ財産運、地位・名誉運等々と違った運があるが、人間運と言える人が最高ではあるまいか。先生はご自身では云われないが、それには自分が人を魅了するだけの心・力を持たねば他人はついて来ない。

今年67才と云われるが、よく通る声、筋道たてた話の内容…。とてもその年齢には見えない。

——診療のモットーは?「今は会の仕事が多く午前中だけ診療を行っておりますが、時間が少ないことから朝8時に開院しております。ある来院患者さんから聞いたのですが、たまたま乗ったタクシーの運転手に、この辺りに良



い歯医者さんがありませんか、と尋ねたら、少々ブッキラボウで頑固だが、病気には親切な歯医者があるよ、と此処を教えてくださいました、と言っておりました。その通りで、時に私は患者さんには強い言葉を吐きますが、歯科疾患に対しては親切なんです(笑)。今の医療には通用しない部分があるかも知れませんが、親子何代にも亘っておつき合いですから、以心伝心で…。ええ、患者さんにも恵まれております(笑)。

お生まれは東京・千住。育ちは戦時中疎開したことから主に和歌山、と言われる。東京歯科医専を卒業された翌年、江東区大島でご開業。——お子様は?「娘は私と同じ東歯大

に進みましたが既に嫁に行きました。長男は親父の顔でと後々まで云われるからイヤだと東海大の医学部に。血液内科を専攻し、昨年学位を受領したようです。私も佐藤先生のご紹介で新潟大学の医学部で冠動脈硬化性心臓疾患の疫学的研究で学位を戴きましたから、職業的には歯科と内科で違っておりますが、いづれか通じるものがありますね。将来は出来たら私の診療所の内部で内科の医院を開業したらどうか、と思っているんですよ(笑)。

——現在、今年京都で開催されるISO国際会議に向け全力投球とお聞きしましたが、読者の先生方のメリットは?「私は、一人笑いはいけないし、好きではありません。歯科医師、機器メーカー、技工士、衛生士等、歯科医療界に携わる総ての人達が共に苦しみ、共に喜びを分かち合って生きることが大切だと思っております。ISO会議は、日本のJISを世界のそれと整合させることが出来れば、使用中の材料・器械はどんな国の製品だろうと、マニュアル化して保守、点検が即キチツとできるようになります。研究開発にお金のかかる日本のメーカーも世界にどんどん進出出来ますし発展もする。歯科業界が良くなれば、価格も下がりそれを購入する歯科医師も楽になります。地球が狭くなり、もう一つの国だけにとどまっている時代ではありません。共に発展するために機器業界のご協力も頂きまして、現在大きな視点で準備中です」。

——最後に先輩として、ご開業中の若い先生方にアドバイスを。「この職業は玄関で呼び込みをやる、というわけには行きませんが(笑)、一度訪れた患者さんには誠意をつくし、必ずファンとすることが大切です。誠意をつくすということは、常に患者さんの立場に立って診療すること。言い換えれば自分を患者さんと入れ替えて考えるということです。そして又、前に治療した歯科医を絶対に誹謗するな、ということです。その歯科医師は自分なりに一生懸命治療した筈ですし、それを聞く患者さんも心の奥底は決して良い気持ちではないと思います。常に自分が患者であったなら…。それはいつの時代でも通用する“医の心”だと思っております」と、結ばれた。

NY
海外だより

日本人歯科衛生士を 最近のニューヨーク



通してみた 歯科事情

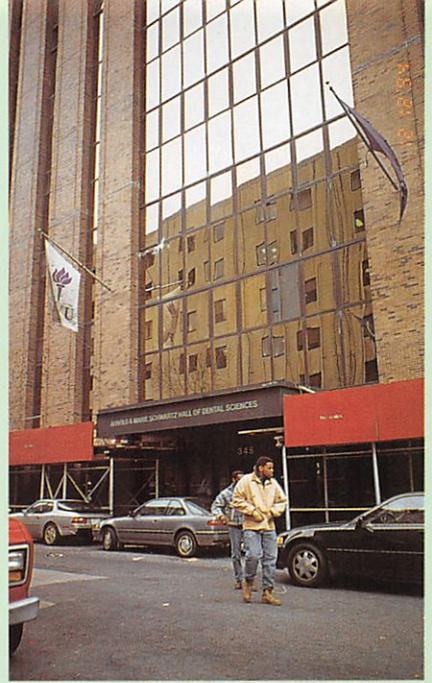
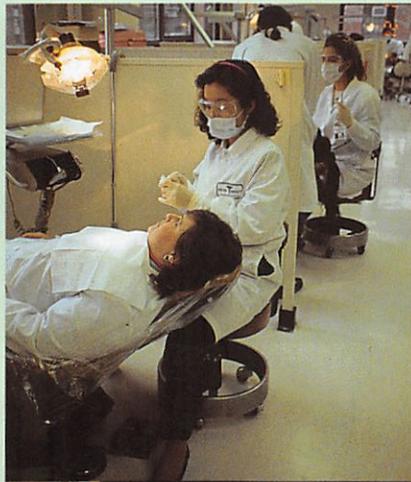
早いもので、戦争が終わって今年50年、私がこの誌上で「海外だより」を書き出して23年になる。

その間NYで1977年当時ただ一人の日本人歯科医だったP.ヨシトミ医を取材して、彼の日本の若い人へ贈る言葉、「世界一になれるのだから世界一になれ!」を伝えたり、82年には、「若者よ東(アメリカ)に行け」と励ます記事を書いたりした。前者は18年前、後者は13年前のこととなる。

振り返って眺めると、日米関係は距離的には近くはなったが、摩擦は相変わらずだし、こちらで開業している日本人歯科医数も限られたものだ。歯科診療分野の日本人留学生となると、探すのに苦労するほどまだ少ない。

人類社会の実態とはこういうものらしい、と超楽楽家の私にもやっと分かってきた。冷戦が終わってみなホッとしたのも束の間、今度は各地で勃発する主義・思想をめぐる紛争、核からサリンや細菌の様な「見えない」破壊手段への移行、そして相次ぐ天災と、人類は振り回されっぱなしの感がある。

日本とは云えば、これ迄平和・安全という事では「地上の楽園」的、例外と思われる程の存在だったが、サリン事件はその「楽園」を一夜にして私達から奪ってしまった。「楽園」を失い、厳しい人類社会の現実にはさらされることとなった日本が、これから国際社会の一



に、私達が生きていければ、日本はたくましく成長し得る、ということだ。

そんな想いに囚われながら、視野を世界から足元のニューヨークに移し、拡大鏡片手に眺めて見た。

誰かそういう日本人が——、たくましく生きている、又は生きようとしている日本人が、地元の歯科分野に居ないかな、という事だ。

そしたら視界に入ってきたのが、坂上恵子さんだった。



歯科衛生士の坂上恵子さん(以下Sさん)

彼女は93年にニューヨーク大学歯学部(衛生)を出て、現在同大学大学院在学中だが、その傍ら、大学のクリニックで後輩の指導講師をし、又NY市内の米開業医のところで衛生士として働いている人だ。

愛知県(豊橋市)出身で、日本で歯科衛生士の資格を取得したのは84年、アメリカでは93年で、ゆくゆくは日米両ライセンスを活かして

員としてたくましく成長し得るか、それとも、「昔、大変経済的に繁栄した島国が東洋の一角に在った」、といったことになってしまうか、は私達一人ひとりの日本人の肩にかかることとなったといっても大げさではなからう。

ひと言で云うと、人間不信に陥らず、外に出るのも恐ろしいと自己の殻の中に閉じこもらず、人類社会で異質の視点や事態にぶつかる事を避けず、生きる上で回避不可能な心理的苦悶・幻滅・悲哀に門を閉ざさず——

世界的レベルでの仕事をしたいと考えている。

日本では、ライオン歯科衛生研究所の東京本部に入所(84年)し、その普及グループのメンバーとして、東日本中心に口腔衛生普及活動や、ライオン(株)の商品開発・研究・営業にたずさわったようだ。

こうしてライオンで6年近くなった頃、気分転換期に面したらしい。長期海外旅行を思い立ったようだが、女性社員の3ヶ月以上の休暇というか欠勤は認められず許されなかったので、「それでは」と退職し、自費でロンドンに行った。89年のことである。

ロンドンでの18ヶ月間は、気忙しい日本のビジネス環境から開放されて、自分を見つめ直すのに役立った模様だ。生活費の足しとして、全日空や日系証券会社でアルバイトもやった。

アメリカにやって来たのは91年で、NY大学歯学部に入り、現在大学院で歯科も含めた全ヘルス課程の修士号取得中だ。

永住権(グリーン・カード)を92年に柵からぼたもち式に取得している。アメリカ国務省が初めて抽選で永住権希望者を募った年で、友人が「応募しよう」と誘ったので、あまり乗気ではなかったが応募した。乗気ではなかったのは、「まず当たらない」と思ったこと、そして5年間滞在有効の学生ビザを持っていたし、又「何時まで此処に居るかも分からないの——」といった気分だったからだ。

しかし友人が熱心だったので、当時の彼女にしては大金の160ドルを出して、中国系アメリカ人弁護士に書類を作成して貰って応募した。何通応募書類を提出してもよかったのだから、彼女は20通、友人は300通郵送したそうだ。そしたら2人とも目出度く当選してしまった。何千通出しても当たらなかった人もいるから、運が強かったわけだ。

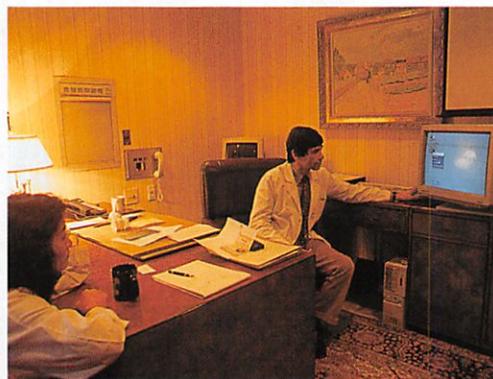
今年も米国務省はこの抽選永住ビザ発行のプログラムを実施しているが、ルールが変わり、応募者は一人一通しか申請書が出せなくなった上、各国向け枠の制限ももうけられ、日本は年に300人足らずの枠と聞く。毎年4万から5万人の日本人が申請しているそうだから、日本脱出を狙っている同胞が相当いることになる。物価は高いし、生活環境はお粗末だし、その上リストラだ何だかんだで終身雇用制はくずれ、経済的安定感も過去のものとなってきた——、といったことがその



ニューヨーク5番街



Dr. M. Lemchenのオフィス(受付)



デモンストレーション中



背景に窺える。

Sさんも、自力で生きている海外生活を満喫している様子だ。事実、「ニューヨークでのびのびやっています」と云う。彼女は大学院で勉強する傍ら、講師、衛生士としても働いているからスケジュールはびっしりだ。だから彼女の云う「のびのび」とは、無駄が少なく自分のやりたい事に専念出来る充実した生活を指していると云えよう。

Dr. Marc Lemchen(以下L医)

Sさんは現在2つのマンハッタンの中核地区で衛生士として働いているが、そのひとつが5番街61丁目の角にある矯正専門のL医のところだ。彼女は92年の春から此処で週1

~2日働いているが、そのきっかけは大学で、此処で働いている人に会ったからという。

私が取材に行った日は土曜日で、子供の患者が多かった。矯正治療はこれ迄子供が対象とされてきたが、アメリカでは近年大人も矯正治療を受ける人が増えていて、L医の患者の半分近くが成人という。Sさんも此処でプレイスをはめて貰っているが、今年で丸2年はめているようだ。

現在全米で矯正治療を受けている成人

NY

海外だより

日本人歯科衛生士を通してみた
最近のニューヨーク歯科事情

プレイスの事を知らぬ彼のボスは、最初彼がビジネス・ランチで少しお酒を飲み過ぎたのだろう、と思ったという笑い話がある。だからこの舌側のプレイスは、企業トップや弁護士のように、スピーチをしたり取材に応じたりする人達にとっては、まだ些か難点がある様だ。

しかし、米国の成人間での矯正に対する意識は、間違いなく良い方に前進している。全身の健康との関係といった医学的理由の他に、自分の「歯並び」の良し悪しは、驚く程その人に心理的影響を及ぼすものだ。だから、少し位苦痛でも不自由でも、「是非」歯並びを良くしたい、という人は各界・各層に増えているし、最近では遊び気分の強いアクセサリ一化風潮まで誕生している次第だ。

日本と違い此処アメリカでは、歯の手入れの悪い人は、初対面で「自己管理」の出来ない人、つまり何か問題点のある人、との認識を相手に思わせることとなる。だからきれいに磨かれた、きれいな歯並びは、人間関係やキャリア上大切なポイントとなる。

だからこそ、子供の時に家が貧しくて、矯正してもらえなかった女性が、結婚して子供が出来てその子達の矯正を終えてから、「さあやっと私の番」と、30年後にプレイスをはめたりする。私が聞いた公認会計士として働いている女性もそういう例の1人で、以前は歯並びを気にして、家族揃っての記念撮影でも絶対笑わなかったそう。今では勿論ニッコリ笑って写真にうつる身となっているし、人前で笑うことを恐れなくなった。ということは、矯正のお蔭で性格が明るくなったというわけだ。

又、ニュージャージ州の女性市議員(46才)がはめていて、彼女が再選したのは、「自己改善に努力する人だ」との有権者の称賛もあるという。自己改善に努力する人は、都市問題解決にも努力する筈との認識につながるらしい。

更に、プレイスをはめると、気分が若くなることにも役立つ様だ。35才のパイロットが旅客の間を歩いたら、「(私達の)旅客機を運転するには彼は若過ぎる!」との声がかんぞう

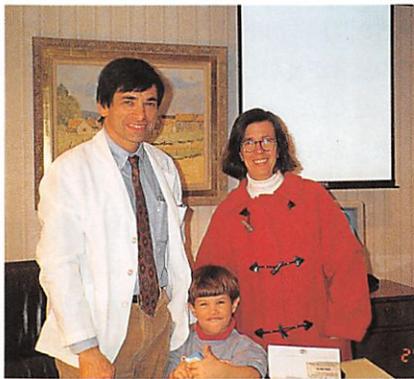
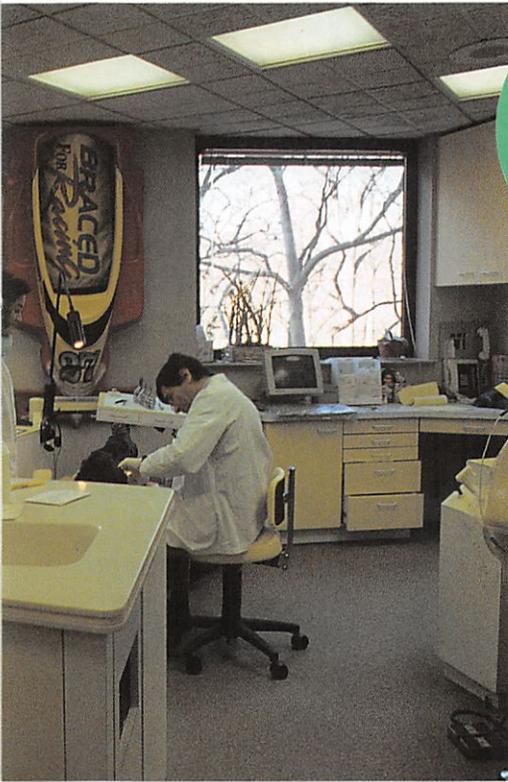


が、歯は何才になっても動くということが分かって来て、成人の矯正が増加したという。中には80代で矯正治療をしている人もいます。大人の矯正は難しさということでは子供のそれと変わらないが、時間ももっとかかり、違うやり方となったりはするそう。

大人の矯正が盛んとなってきた他の理由としては、はめるプレイス自体が「進歩」して、目立たなくなったこと、又はめていての苦痛感や違和感が少なくなったことがある。材料が透き通ったり、白くなったりして、はめていても「見えない」プレイスの種類誕生、ワイヤーもうすくなっただけでなく、体温で曲がり口内の違和感を減少させるものなどの登場となったからだそう。

更にリングアル・プレイス(歯の裏側、つまり舌側の矯正装置)の誕生が、大人の矯正治療に拍車をかけることとなった。治療コストは高いが、内側なので見えない。それでプロフェッショナルや企業トップの人達がこれをはめる率が高いらしい。

短所は、高額であることその他に、食事時に噛みにくい、歯を磨きにくい、そして人に依ってはスピーチが少しおかしくなることと云う。ある会社の37才の企業幹部がこのプレイスをはめた時、最初の2~3ヶ月は舌がからんで、言葉の発音がうまくいかなかったそう。



ドクターと家族



は、少なくとも200万人いるといわれ、その理由は歯並びを治すという美容が目的の為だけではない。不正咬合は歯の表面を痛め、時にはひどい顎痛や肩凝りの元となる。又、歯周病にもなり易い。20年前、大人の矯正が少なかったのは、成長してしまった顎は治療に反応しにくいと信じられていたからだった



イースト42丁目付近



坂上さんとドクター



NY市長ジュリアーニも私の患者です

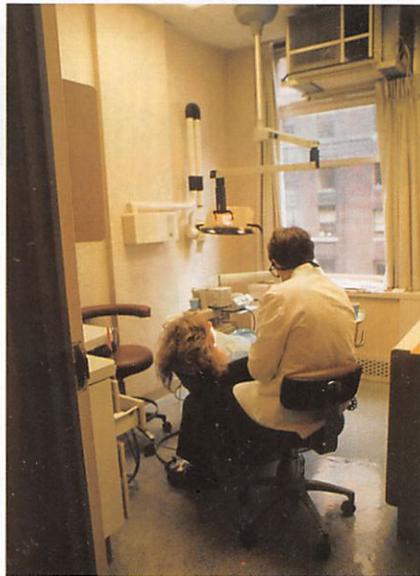
だ。事実、医院にプレイス調整で行くと、彼自身10才頃の心境になってしまうという。

ファッションやアクセサリー気分ということで、わざわざ目立つ色のプレイスを、その時の気分ではめる女性も誕生し始めていて、たとえばクリスマス・シーズンには赤と緑色からなるプレイスを、独立記念日(7月4日)にはアメリカの国旗になぞって、赤・白・青のものを、といった具合である。

矯正治療費は3,000ドルから5,000ドルが一般の相場と聞くと、日本のそれに比べてずっと割安といえよう。又日本では保険がきかないそうだが、アメリカでは殆どの保険が費用の一部をカバーするという。もっとも保険に依っては、21才以下、といったことにもなるらしい。ちなみに、米歯科矯正協会はプレイス宣伝に、年間約100万ドルの広告費を使っているそうだ。



Dr. J. Markのオフィス(待合室)



Dr. Joel Mark(以下M医)

Sさんが衛生士として働いているもうひとつの歯科医院は、マンハッタン東側42丁目にあるコスメティック専門のM医のところだ。彼女が此処で働くことになったきっかけは、M医がニューヨークの邦字新聞に、衛生士の求人広告を載せ、それを見たSさんが応募したからで、一年半位前のことだ。彼女は此処でも週1~2日働いている。

M医は1978年にニューヨーク大学歯学部を卒業し、最初の数年は一般歯科医として働いた。歯科治療の知識や技術は大学で学んでも、実際にそれを使いこなせるようになる

NY

海外だより

日本人歯科衛生士を通してみた
最近のニューヨーク歯科事情

のに5年位かかる、というのが彼の意見だ。患者1人ひとりがケース・バイ・ケースとなるから、それに自在に対応出来る自信のことである。又、素材にしても技術にしても、どんどん新しいものが出てくるから、それにも対応せねばならない。

グランド・セントラル・ステーションのすぐ傍にあるリンカーン・ビルの中に、M医が開業して10年になる。彼がコスメティック歯科専門となった過程は自然の成り行きだった様だ。ひと言でいうと、患者の容貌が良くなるように治療したい、と希望したからだ。ちなみに彼は、今日の歯科治療の殆どは、審美と云えるのではないかという意見を持っている。素材種類も豊富となり、技術も進歩した昨今、歯科医は同じ治療をするにしても、結果的にその患者が良く見えるように治療する選択がふんだんとなったからだ。

彼の患者の殆どはアメリカ人だが、ニューヨークということもあって近年外国人の患者も増えてきた。日本人も増えたそうだ。異文化の人達の審美観の話となり、日本人はつき出た糸切り歯を問題視しないが、アメリカでは、悪い歯並びの手入れをしない、つまり自己管理が出来ない人との先入感につながることや、ラテン・アメリカ人は前歯に金を入れたがること、歯間の隙間は「個性的」と好まれる——とエピソードは尽きない。

患者数は1日9人位で、彼のところにやってくる患者の中には、ジュリアーニNY市長も入っている。市長の奥さんが最初患者になり、次に市長、その中市長のスタッフが皆やってくるようになったそうだ。私のところも、私がグリア医のところに行くようになって、私のスタッフが皆グリア医に治療に行くようになっているから、人間関係とは面白いものだ。

(次号に続く)

筆者紹介

岩本蘭子

ボストン大学大学院ジャーナリズム科卒業
ランコインターナショナル社長

オサダの商品<お元気ですか>

(医)晃晋会
みなと歯科医院

小樽市色内1-6-20

平井歯科医院

小樽市福穂2-8-9

理事長 平井茂重
院長 平井晃
歯科医師 平井聡子
歯科医師 平井清子



かつてニシン漁では北海道西岸第一の港湾都市であった小樽の街も、漁業の衰退にともなって急速に変貌、残された木骨石造のクラシックな建物と運河が若者に共感を呼び、今は観光地としてすっかり生まれ変わっている。

ご紹介の平井歯科医院は駅前通りを港に向かって2~300m、みなと歯科医院はそこからさらに200mほど下がった繁華街に建っている。

理事長は昭和37年、東京歯科大学をご卒業された後、母校で2年程保存学を研修。その後奥様の実家(開業医)である此処小樽市でお義父様と共に診療生活を。昭和50年独立され、みなと歯科医院をご開業。以来、小樽市歯科医師会専務理事、北海道歯科医師会常務理事等々を歴任、20年余り歯科医療の向上に貢献された方である。

それを陰で支え、医院を守られたのが奥様である聡子先生。同じく東京歯科大学を卒業され、卒後は東京医科歯科大学で矯正学を勉強。39年夫と共に実家に戻られ臨床医として第一歩を踏み出された。

お祖父様が亡くなられた後、しばらく途絶えた平井歯科医院の名を再建し、駅に近い絶好のこの地に一昨年開業されたのがご子息晃氏。同じく東歯大を平成元年に卒業され、卒後は母校で歯周療法学を3年余り勉強。その後故郷に戻りご両親と共に診療生活に入れ、その後先述の様に独立、院長としてご自身の道を築きつつある。

若奥様である清子先生も東京歯科大学卒と言われるから、当院のドクターは全員東京歯科大学卒業。同窓会、その他の行事等も話が合い好都合なことであろう。卒後は母校で口腔外科を2年近く学び、その後結婚、夫と共に北海道へ。尚、青森でご開業中のお父様の跡を現在お姉様が継がれておられると言う。

理事長のご兄弟、奥様のご兄弟、ご子息、さらに清子先生の実家とご兄弟、周りは途中でわからなくなる程の歯科医師一家という恵まれた環境下にある歯科医院である。

まずは大先輩である理事長から…。「私が義父のもとから独立、開業したころは市の会員も70人ほどでしたが、現在は100名。人口は年々減少し、今は16万人を切っておりますし、地元の主だった会社もないことから、若い人は



札幌に通勤していますので、昼間人口は更に少なく、各院共経営はかなり大変な様です。何の職業でもそうでしょうが、相手の立場に立って精一杯考え努力しつづけて行けば、必ず報われます。息子にも言うのですが、一度来院された患者さんは良いと思えば何年後には再び来院される。他院に行くと言うことは何か不満があるからだ。人は良いと思えば他の人を紹介しますから、1人1人にスタッフ共々満足のいった治療、ケアをするようにしております。幸い息子もその心を継いでやってくれているようで…。私自身、今は不満は全くありません。0からのスタートで借金をし開業しまして、子供を育て、此の度は知人から偶然良い土地があるからと紹介を受け、平井歯科医院を無事開業。ああそうだ、ずっと借金を背負っての人生。それが不満ですね(笑)。みなと歯科医院の診療室には20年近く前ご購入頂いたスマイリーと共にスマイリー-N、パーソナーFX、昨年ご購入のファインGMとオサダの歴代のユニットが並んでいる。「開業当初は他社製品もありましたが、買った翌日故障をし、揚句の果てに修理は4~5日待ってくれと。思わず怒鳴りましてね。以来総てオサダのユニットに変えましたが、アフター共々よくやってくれ助かっております」。

開業当初は他社製品もありましたが、今は総てオサダに変えました。20年前の開業時に買ったスマイリーも今だ健在。アフターも良く、助かっておりますよ。



—院長、卒業後3年余りで実家に戻られたようですが親子間の断絶は?「お互いの診療には干渉しないということで患者さんも分けておりましたから…。ただ、診療室が狭かったこともあるんですが、座位はダメ、立位ですべてやれと(笑)。少々抵抗はあったんですが、今独立してやっともともどったという感じです(笑)。でも症例により立位の方が良いこともあり、良い経験となりました。これからは勉強した歯周疾患を中心に自分なりの歯科医院づくりをして行き度いと、時間の許すかぎり患者さんと話すことにしております。以前祖父に診てもらっていたからと昔の平井歯科当時の患者さんが来院してくれたりで…。お陰様で出だしは順調。恵まれたと感謝しております」。



—聡子先生。女医として生きた人生をどう思っていますか?「仕事上では女だから云々は全く感じませんでしたね。ただ子供を3人育てましたから、食事その他の世話をずい分母に助けてもらいました。その点ではハンディとは思わなかったものの、多少苦労はあったかしら(笑)。女性も自立出来る仕事を持ち、家庭と上手に両立させながら、子供を生み育てる。又、たとえいち時休んでも社会復帰出来るこの職業は素晴らしいと思っています。今後女医として生きる若い先生方、ぜひ頑張ってくださいね」。



—清子先生はいかがですか?「大先輩が近くにいると色々教えてくれますので非常に良い勉強になります。卒後口腔外科におりましたので、今は学ぶことが一杯ありすぎて(笑)。特に総義歯は全くかないません。あせらず一歩一歩、周囲の方に助けられながら勉強して行きたいと思っております」。

お互いに好きでいっしょになったのだから、不平を云ったり、文句を云い合ったりしたらお互いに損。これをモットーに生きて来ました、と云われた理事長の言葉が印象に残る。



井尻歯科医院

DENTAL SPACE

井尻歯科医院

鳥取市雲山110-38

院長 井尻 恭子

動線分離と医院全体を和らかなイメージに仕上げることを第一条件に作りました。

鳥取空港から国道29号線を、車でおよそ15分ほど走ると各種行政を司る町の中心地である市街地に着く。ご紹介の井尻歯科医院は街を抜け更に5~6分走った新興住宅地を形成しつつある因美線に沿った道筋にある。付近にはまだ緑芽吹く春の田畑が目につくが、近い将来は新しい住宅で埋めつくされることであろう。

黒地に赤文字の立看板。外壁のベージュに半円を描く屋根はグリーン、住居として使用する2階部の手すりは赤と、カラフルなイメージの外観であるが、玄関に一步入るとその雰囲気はガラリと変わって、飾られた花や観

葉植物を別にすれば、白を基調にグレーと木目のブラウンのみとなる。そのともすれば冷たい雰囲気になりがちな色使いを補っているのが、各部に取られた曲線。

待客室の窓に大きくアール状を描くマジックミラーガラスを貼め込み、それに沿って、グレーのバックスキンの椅子が並ぶ。天井は吹き抜けで、中心からプロペラ式の扇風機が静かに室の温度を攪拌している。

玄関近く、前面駐車場の窓に沿った入口から診療室へ。通路に沿ってL字型のパーティションを設置し、中には濃淡グレーのスマイリー<ノーベル>が3台、各部に置かれて

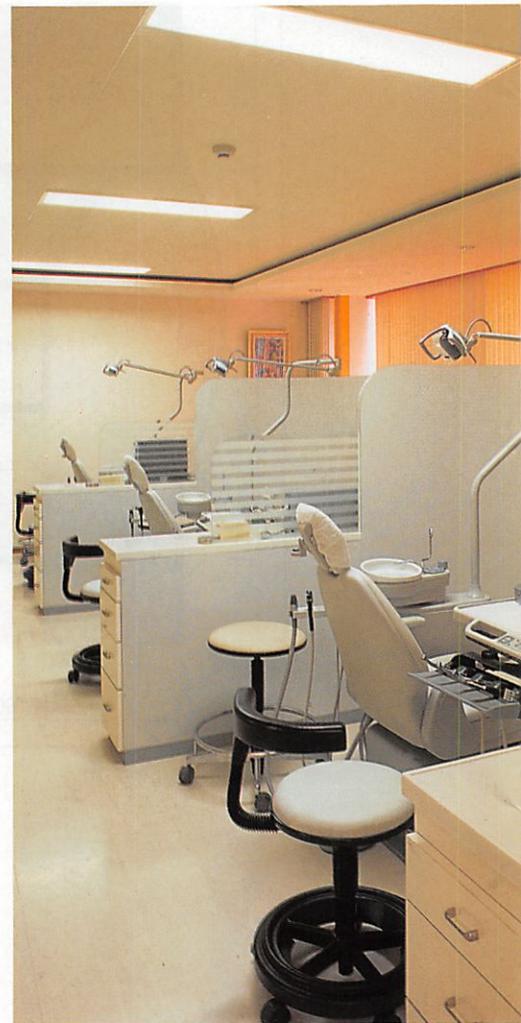
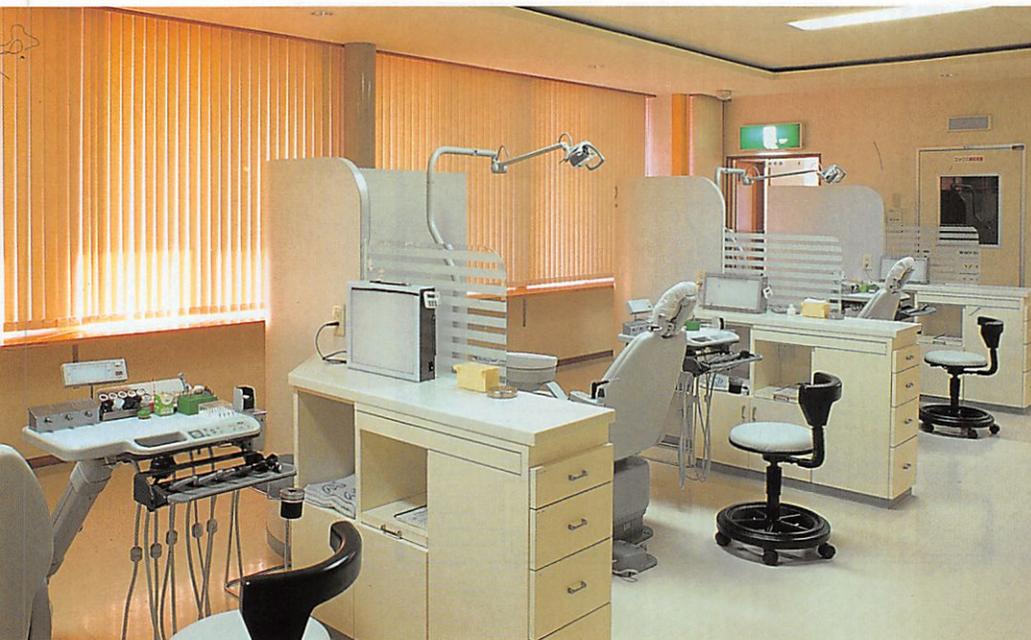
いる。座った患者さんは半個室的なイメージになるが、頭部に座る術者は、L字パーティションの先端に貼め込まれた横しま模様のガラスによって、総ての患者さんの状況が一目で把握出来るという考えられた設計となっている。

院長は昭和58年、大阪大学歯学部をご卒業。卒後は大阪厚生年金病院で勤務医を4年。更に将来にそなえ同じく大阪の開業医でおよそ6年臨床を経験された後、昨年3月当地で開業に踏み切られたという、経験豊かな歯科医師である。

歯切れ良く、ハキハキした口調の院長と若く明るいイメージのスタッフ一同。

女性ばかりの歯科医院として、スタート以来患者数も順調に伸びているご様子である。

Q：初代というお話ですが、志されたのは？



か、という感じです。勤務医時代、小児から一般まで患者層は巾広く経験しましたので、現在の診療には非常に役立っていると思いますが、現在は学んだことを持ち出すばかりで…。患者さんのニーズにそって、診療の巾を広げていきたいと思っていますので、その都度必要な勉強をして行こうと思っています。

Q：診療上の方針は？

院長：常に、もし私が患者だったら、ということですね。私がして欲しくないことは患者さんもイヤだと思いますから、出来るかぎり患者さんと話し、専門的にみて無理でない限りは、患者さんの意向に沿うような診療方法を取るようしております。

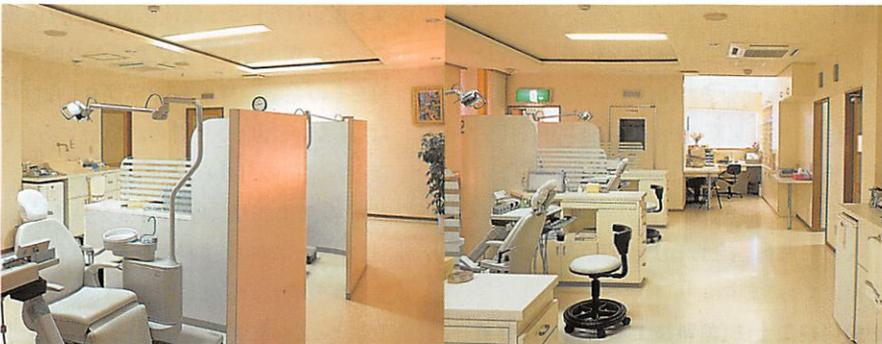
Q：診療室を作られるにあたってご留意され

た点は？

院長：友達の診療室をいろいろ見まして参考にしましたが、設計士さんのアドバイスが大きいですね。私の条件は動線分離と和らかな雰囲気を感じさせるイメージで、ということでした。それと、待合用椅子の材質と色。汚れが目立ちますよ、ということでしたが、こだわりました(笑)。

Q：オサダのスマイリー<ノーベル>。選ばれたのは？

院長：病院勤務時代にオサダのユニットを使いまして、気に入っていました。その後の勤務医時代には色々なメーカーのユニットを経験しましたが、開業にあたっていろいろなメーカーを回り調べましたが、やっぱりオサダが良いと(笑)。最初に使った印象が強かったのかもしれませんが。



スマイリー<ノーベル>は形も使い勝手も不満はないんですが、少々チェアのクッションが硬い感じ。あとは総て気に入っております。

Q：将来は？

院長：私なりに丁寧な治療をしているつもりですが、いつも時間に追われている感じがしますから、もう少し余裕が欲しいですね。

Q：お友達に何か一言。

院長：同級生は全員で48名。内8人が女性でしたが、全国に散り、ほとんど会えません。同級生の皆さんぜひ一度お会いしたいですね、と呼びかけても私が行けなくなったりしたら(笑)…。私も元気にやっておりますから皆さんも健康には注意されて頑張ってください。

<設計事務所の立場から>

住宅地の中に建つ本医院は、近所の方が気軽に立寄れる様に、内外共できるだけ柔らかい感じに仕上げることに務めました。

2階の住宅外観部分も診療所の一部と思われるように住宅らしさを押えました。敷地が横長な為に横移動の室内配置となりましたが、逆にスタッフと患者の動線を完全に分離し、かつドクターから全体が見渡すことが出来ました。

医院内部は清潔さが強調されるよう、できるだけ白に近い、ハーフトーンの色で統一し、絵や緑でアクセントがとれるようにしています。

矢野建築設計事務所(有)



改訂版 開業ガイド

歯科医院の新築・増改築などに
豊富なカラーphotoを
多数掲載!!

<主な項目>

- 歯科医院のセクション別実例
(カラーphoto118点掲載)
- 歯科医院のレイアウトチェック
リストと基本事項
- これから開業される先生方へ
——オサダからのアドバイス
- 開業と税金の知識 他

定価20,600円
(本体20,000円)



※御希望の方は下記迄、御連絡下さい。
長田電機工業(株)／お客様センター
〒141 東京都品川区西五反田5-17-5
TEL 03(3492)7651(代)

杉並区立 杉ノ木歯科診療所

東京都杉並区下井草
4-30-23



行政(杉並区)の理解のもと、公務員レベルの地位を確保。 常駐スタッフを配した障害者(児)専用の 杉ノ木歯科診療所を訪ねて。

高齢化社会の到来に伴って増え続ける寝たきり老人や心身に障害をもつ人々の社会的復帰を願って、いま全国の歯科医師会が独自の方法を模索しつつ活動を展開している。が一方、こうした活動は国の福祉予算抑制策から歯科医師のボランティアに近い奉仕で成り立っている地域が多いのも実状。

そうした中であって、ここ区立・杉ノ木歯科診療所は、行政側の理解の下に、常駐歯科医師1名、衛生士2名、看護婦1名、受付・事務1名の計5名を地方公務員並みのレベルで雇用、運営されているという、全国でも数少ない診療所の一つである。

場所は西武新宿線・井荻駅から商店街を抜けて7～8分。杉並区役所下井草出張所の地続きに建てられている。ベージュ色の2階建の建物は、昨年12月に完成されたばかりとあって、外観・内部とも真新しい。

1階は受付、診療室、予診・指導室、消毒室、技工室等が設置され、2階は医局、所長室兼応接室、会議室等に使用されている。内部の壁には総て手すりがつけられ、広さも十分確保。むろん段差は出入口共々全くない。

診療室の窓に沿って、オサダのST2システムと呼ばれる身障者専用ユニット1台とカート式のスマイリー<ファイン>1台が、天井から無影灯を下ろし設置されている。延べ床面積360㎡とあって、各部はゆったりと広く、これなら車椅子使用者も自由に移動出来るであろうと思われる。

現在の活動状況と設立までのご苦心を内

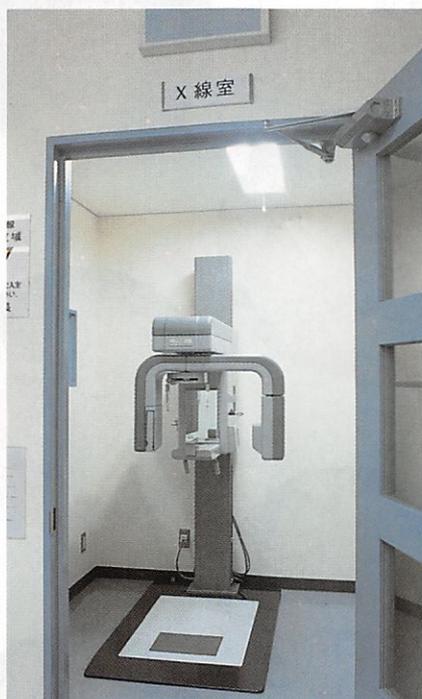


副所長／岩田 嵩

部をとり仕切る副所長(所長・区歯科医師会長)である岩田嵩先生に語って頂いた。

「この障害者専用診療所を作ろうと、区が計画立案したのが、実は20年前なんです。途中、色々な紆余曲折がありまして(笑)、計画を実現しようとしたのが平成元年4月、意志決定が5年の10月。それまで行政側も歯科医師会に委託して、もっと安易に行おうと思

っていたんですが、やるならば我々歯科医師側も住民も安心して納得がゆく方法でキチッとやりたいと…。条例による区独自の事業とし、それを区が歯科医師会に全面委託、契約し、専門医(東京医科歯科大学に依頼派遣)を置き、他に12人の協力医を輪番制で治療にあてるようにしました。現在平均1日7～8人の患者数ですが、火、木曜日は私と協力医が加わり、3人で集中的に治療しております。患者の内訳は身障者が1/3、身障児が1/3、脳梗塞その他の疾病で開業医にかかれない老人等が1/3ですね。特に老人の場合は他に疾病を持っておりますので、治療前には私や松本先生(専門医)が心電図を図り、聴診器で必ず体調を調べます。又、外部の循環器や内科の先生とは常にコンタクトを取れる状態にしております。私も医科の知識を得るために医科歯科大学に通いましたが、協力医の先生方も、都立身障者口腔保健センターで3ヶ月間研修、認定をしてもらった方々に、1人週2回、2ヶ月間を一つのサイクルとしてお願いしております。体力のある45才以下の先生方に絞り、任期は4年となっております」。——最も気を使われることは? 「う



一。やはり内部の人事管理でしょうね。お互いに和を保ちつつ、患者さん1人1人に総力で治療にあたるのが最も大切です。治療技術は患者さんの持っている障害に合わせて、その都度対策を立て治療にあたらないければなりませんし、歯科治療そのものは一般の人達と変わりはありませんから、特別気をつかうということはありません。とにかく愛情をもって、歯の予後を含めて色々な訓練を生活の一部として取り入れていくように指導しております。区の広報誌と新聞が一度取り上げ、一般に知らせただけですが、口込みで患者数もこれからどんどん増えて行くでしょうね。そうなったら、ユニットもスタッフも増やさなければなりませんし、まだまだ頭の痛いことは続きそうです(笑)。——要綱作りや行政との折衝、岩田先生は何故この道に? 「もう20年も前の話しになりますが、当時私は国保の担当理事として区役所にいつも出入りしてました。そんなことから、49年に地方自治法が改正された時、区民の健康の保善の一環として当然歯科保健も含まれ、それなら区役所に知人の多いお前が適任者だと会長に言われ…。それが運のつきだった訳です(笑)。

でも、若い時からやや左寄りの傾向があったのかな(笑)。初めは手さぐり状態でしたが今はやっとここまで来たと自己満足しております(笑)。「でも都の中でもこの杉並は、以前から寝たきり老人の応診など最初に始めましたし、そうした下地は会の先輩の方々を初め、行政の方々にもありましたので、そういった意味で、区民共々恵まれていると思っております」。「治療の方針は、とにかく集中治療ですね。短期間に終わらせないと、1人では来れませんから患者さんとはともかく、介護者の方が参ってしまいます。障害者の立場を十分考えた、心ある治療を心掛けておりますが、スタッフ一同もそれをよく理解してくれまして、お蔭様で来院者には非常に感謝されております。地域医療とはそういったものだと思います

ね」。「行政側との折衝も、初めはケンカ腰でしたが(笑)、20年間、お互いに反省したり歩みよったり、その内連帯感を抱くようになり…。私達が出した3つの条件。1. 区の条例事業とすること。これは将来経営が破綻しない為です。2. 常勤職員を入れ、本格的な診療所とすること。これは職員のしっかりした身分保障をし、又有能な人材確保と勤労意欲の向上を図る為です。3. 建物の広さは300㎡以上とすること。このことは決して贅沢ではなく障害者の治療は、精神の安定が非常に大切な要素をしめるからです。幸い行政側もこの条件を先に言いました様に理解してくれまして…。まだスタートしたばかりで設備機器も完全ではありませんが、実績を積み、一つずつ取り入れて行こうと思っています」。「レントゲンを含め、ユニットも総てオサダにしましたのは、保健所に入っていたことで、その評判を聞き…。同一の方が都合が良いことと、何よりきめ細かなサービスが私達には最も大切であると思ったからです。普段の熱心さの勝利でしょうね(笑)」。

笑った顔には弱者に対する暖かい思いやりの心がこめられているように思えた。

ア シ ス タ ン ト 紹 介

(医) 柏葉会
三嶋歯科医院

(病院)岩見沢市7条西5丁目
(栗沢院)空知郡栗沢町本町109

院長 三嶋 頌

岩見沢駅より駅前通りを徒歩でおよそ10分。空知支庁の前面角地に建つ三嶋歯科医院。当誌が発行されてまもない20年前に、診療室拝見でご訪問したが、医院は増々隆盛、白亜の建物はおよそ倍の大きさとなって青空の下に輝いていた。

院長は北海道歯科医師会の理事として12年間、昨年4月からは岩見沢市歯科医師会の会長として歯科医療界に貢献、ご活躍中、と言ってもお年は今年51才。先輩の信頼はもとより、後輩からも頼れる兄貴として慕われている働き盛りである。特にインプラントにおいては開発まもない昭和53年頃より全国で講演されているので、読者の先生方もご存知の方が多いことであろう。

又、当院はこの本院のほかに、車で30分ほど南に下った栗沢町に分院をもち、高齢化社会に向かって、町のお年寄りを中心に診療・ボランティア活動を展開されている。その様子を「現在在宅診療が全国的に盛んですが、歯科は外科と同じ範疇に入るべき治療ですから、レントゲンその他が設備されたしっかりした自院でやるべきなのです。その為には行政側と連携し患者さんを歯科医院に搬送し、お互いに満足のいく診療が大切」と今後の老人歯科医療の在るべき方向を示唆される。その他、定年退職時における夫婦の歯科検診事業の推進や痴呆性老人の主たる死亡原因である呼吸器疾患に対する特殊歯ブラシの開発等、今後の歯科医療に役立つお話を次々とされたが、本題とはちょっと離れる故、ぜひ詳しいお話しを、とご希望の先生は院長の講演時、あるいは当病院事務室にお問い合わせ下さい。又、当誌でも機会がありましたら活動の状況取材してみたいと思います。

院長のお話しが面白く参考になる故、前文が長くなってしまったが…。

最初にご紹介するのはこの道20年余。当院に入って9年目を迎える、札幌歯科学院卒

宮腰ゆき子さん
池田 徳子さん
原 恵子さん
太田 友子さん
大塚 恭子さん
桜庭 夢月さん
黒田由美子さん



の衛生士である宮腰さん。栗沢町の分院で老人歯科医療に取り組みリーダーである。「衛生士として22～23年やって来ましたが、この仕事はやればやる程奥も深く範囲も広がって面白くなって来ました。当初は来院される方を単に患者さんとして見ていましたが、子供をみたら親の気持ちになったり、特別養護ホームにドクターと組んで定期検診に行けば、実体を聞いてレポートを作り道内の会合で発表したりで、広い見地からこの職業を考えるようになりました。」

——大先輩として後輩に何か言葉を。
「若い衛生士の皆さん、年々この職業は向上、認識されるようになって来ましたので、許す限り長く続けて行って下さい。又、当院はそうしたことを積極的にやらせてもらえる環境にあり、私も幸せですが、厚生省も在宅診療を推進する意向を固めたようで、今後は益々良く、やりがいのある職業となって行くと思います。頑張ってください」。

池田さんは池見札幌歯科衛生士学校を卒業され、実家に近い稚内で5年程勤務。昨年6月当院に入られた衛生士さん。「資格を取って長く勤められる職業を、と思ったことから深く考えないでこの道に入りましたが、初めの2～3年は毎日覚えることばかりで大変な職業だと思っていました。」

この頃ようやく回りや仕事のやりがいの様なものが見えて来た、というのが実感です。栗沢院におりますので、お年寄りの患者さんが多く大変な面もありますが、毎日がたのしいです。結婚してもぜひ続けたいと思っております」。おとなしそうですが、芯はしっかりしている印象の衛生士さんだ。

原さんは栗沢院の受付担当。「田舎の町で、お年寄りが多く来院されますから、お孫さんが私と同じ年齢ぐらいからかしたら、その気持ちなど色々話し込む方が多いんです。1日30名位来院されますがたのしいですね。近くに福祉村があり耳に障害をもつ人も来院されますので、手



話の勉強もしなければいけない、と近頃考えています」。

太田さんはここ岩見沢の受付担当。1日およそ80名の来院者の対応はむろん待合室の整理整頓から電話の応対まですべて1人でこなすという活躍ぶり。やさしそうなイメージからか、「痛かったけど、あんたの顔みたらホッとしたり」と言われるとすごくうれしと話す。——苦しいことは「予約はずっと一杯なのに、痛いから何とかして、と電話で言って来られた時、どこに入れようかと…」。じゃあお休みはグッタリの質問に「いえいえ、全くそんなことはなく、遊び回っています」のご返事。若さとは素晴らしいものだ。

大塚さんは札幌歯科学院衛生士科を卒業され、当院が開業と同時に入られたというから、院長と並ぶ言わば当院の顔。——この職業についての感想を「医院によってそれぞれ違うでしょうが、まず責任を持って診た患者さんが良くなって行く手応え。次が職業、年齢、性別等皆違う患者さんとの出会い。完治された患者さんの明るい笑顔。どれも今の私にとっては素晴らしいものとなっています。入って3～4年の頃かしら、不安や悩みが一杯になり、このままで良いのか、という岐路に立った時もありましたが、院長がインプラントをやり始めた頃からですね。この仕事が面白くなりました。今では手術の呼吸もア、ウー、でわかるようになりました」と明るく笑う。インプラントという難しい手術をライフワークとされる院



長にとって、まさに頼れる衛生士さんであることは間違いないだろう。

桜庭さんには患者さんに好評を得ているNo.1の助手としてご登場願った。なるほど涼しい目と笑った口もとに好感が持てる。「性格はのんびり、おっとりしている方なので、患者



<院長から一言>

当院は女性スタッフ12名。ドクター4名、研修医1名、他に技工士、事務長の総勢20名という陣容です。高齢化社会に向かって、お年寄りが人口の25%

さんにキツイ感じを与えないのかしら…。自分ではわからないんですが」と自己分析を。——気を付けていることは「挨拶の他にもう一つ何か話題を見つけて話しかけることを心掛けています」とのこと。当院に入ってから4年半。将来は「やっと仕事にも慣れて来ましたので、自身のレベルをアップして行きたいと思っています。出来たら衛生士か看護婦の資格を取って、自分を伸ばして行けたら、更にやりがいが出て来るのではないかしら、と」。——当院の良さは「スタッフが多いので、休みなどお互いに融通がきいて働らきやすいことですね」と屈託がないご返事。

黒田さんは北海道医療大学附属衛生士専門学校を昨年卒業したばかりのフレッシュマン。「何か資格を取りたいと学校案内の雑誌をみていて…、載っていた言葉に魅かれて入学しました。でも今は毎日が勉強で大変なことばかり。資格をとり、責任のある仕事も将来は出来ますし、人と接することも好きなんです。うーん」と少々気弱なご返事。思い直したように「大先輩もいて色々学ぶことが出来ますし、自分に勉強と向上心さえあれば必ず続けられます」と気持ちを变えてキッパリ。揺れ動く自身の気持ちを正直に話してくれた。4～5年後には素晴らしい衛生士として活躍されていることであろう。

を占めるという栗沢町に分院を出し、将来の歯科医療の方向を模索中。此処岩見沢は私のライフワークとするインプラント用の手術室を設置し診療しておりますが、それぞれにその道のベテランの女性スタッフが先頭に立って協力してくれていますので、私も安心して治療に専念出来ます。医院を運営し、患者さんに信頼を得ることはドクターだけでは決して出来ません。お互いの立場を尊重し認め合うことで皆が生きがいを見出すこと。それがこれからの医療の中で最も大切なことではないでしょうか。



短時間で滅菌、しかも低コスト、
場所も取らないオサダ<プチクレーブ>。
限りのあるタービン数にも
効率良く使いまわしが可能で、
非常に助かっております。

野田歯科医院

宮城県遠田郡南郷町大柳字明神1-8

院長 野田清一
(日本大学歯学部卒・35才)



新

幹線・古川駅から車でおおよそ30分。木々に囲まれた鳴瀬川にほど近い静かな住宅地の一角に建つ野田歯科医院。前面に大きな素通しガラス窓を貼め込み、周囲の景色をたのしみながらの診療は、地方ならではのことである。特に、待合室に作られた放射線状の蛍光灯と中心の円柱、それを囲む丸テーブルと半円のソファは、よく考えられた演出と感心する。

院長は卒業後母校で義歯の勉強と荒川区の開業医で約1年過ごされた後、地元に近い仙台市に戻り、更に1年開業医として

の研修を。7年前、故郷である此処南郷町で開業に踏み切られ、そろそろ中堅の域に達する爽やかな印象を与える青年医師である。1日の患者数は平均30名、春休みの今は40名近いと言われるから、患者さんからの好感度も高いことは間違いなく。

「私の育った頃、この町は無医村で、患者さんは仙台まで長い時間をかけて治療に行っていました。その後町立診療所が出来たり、開業医も増えましたが…。親との約束とこの地に開業し、今はスタッフや患者さんに恵まれ感謝しております。モットーは、やはりお互いに納得のいった診療。その為のコミュニケーションづくりを大切にしております」。窓に沿って並んだスマイリーGMの前方にはオサダのハプチクレーブVが。

◇

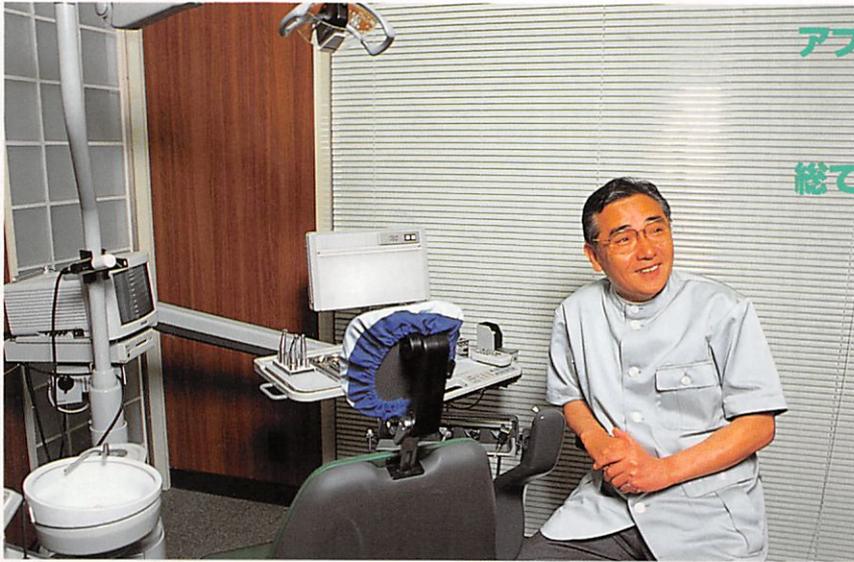
滅菌は午前と午後1回づつクレーブトロンでやっておりますが、タービン数にも限度があります。デンタルショーでこのオサダハプチクレーブVをみて、これだ、と早速購入。短時間で滅菌、しかも低コスト、場所も全く取らないし…。今は効率良く使いまわしが可能で、非常に助かっております。



インスツルメント専用オートクレーブ

オサダ プチクレーブ

製造承認番号06B第0267号 ¥198,600 ※消費税別途



アフターが万全と言われるオサダから、
新時代に焦点を合わせた
＜ファインGMD＞を購入。
総てマスターすべく奮闘中ですが(笑)、
今後がたのしみです。

奥瀬歯科医院

東京都葛飾区亀有3-12-13

院長 奥瀬孝一

(東京医科歯科大学卒・59才)



再

開発事業により大変身中の亀有駅周
辺。その駅前通りの商店街をおよそ
300m、右に折れて2〜30m行った角地に建つ
奥瀬歯科医院前も道路の拡中工事で土煙りが
舞う。幸い当院は昭和6年に開業されたお
父様が地続きを所有していた為、そこに3階建
のモダンなビルを建設。閉院期間もなく継続さ
れたご様子で、永年通われていた患者さんもし
ぞホッとしたことであろう。

院長は卒業母校で大学院、更に助手、講師
として、日本の歯科医療に大きな足跡を残さ
れた総山元教授のもとで8〜9年研修された
実力派。現在も教授を囲むひびり会の世話
役として活動される下町ツ子らしい人情味を感
じさせる方である。——(子息)日菌新潟

大在学中)を含め若い先生方に、「以前と違
つて社会機構も環境も大きく変化しつつあ
ります。が、歯科医師の使命は昔も今も、
学問と共に技術を積極的に探究し地域医
療に役立てること。その為の勉強を生涯貫
いて欲しい」と言われる。

今年3月新装成ったばかりの診療室は
淡いグリーンと白で統一され、アール状に
作られた2つのセパレーションにはスマイリー
N。通路を隔てた完全個室2つにはコンピ
ューターを搭載し21世紀の歯科医療に標準
を合わせたハファインGMDVが設置され
ている。

◇
ただ売れば良いというメーカーが多い中
で、オサダは何年たっても自社の機器には
責任を持つという企業精神が好きで購入
しております。ファインGMDは、買ったば
かりでパソコン時代に育っていない私には
少々難しいが(笑)、総ての機能が起動すれ
ば素晴らしいユニットになると思います。歯
科医院経営もこれからはコンピューターを
駆使した新時代に入ります。当然ユニット
も…。今後がたのしみですね(笑)。



OSADA
Fine GMD L233LL
製造承認番号 03B第0326号

※資料ご希望の方は、商品名、掲載誌名を明記の上、本社お客様センター係宛にハガキでご請求下さい。